収穫間際の葡萄

　さらに「葡萄の実がなってからも、小鳥や雨、虫、雹（ひょう）などが実を傷つけるので、それらから守る為の網を購入し、出費が重なることもありました。当時、網は畑の土地代よりも高く生活は大変でした。ただ、そうした努力が実を結び、独立して１０年でやっと葡萄一本で営農することができ、苦労したかいがありました」と当時を思い起こす。

　手入れについて聞くと「葡萄は本当に手がかかり、年中様子をみないといけません。でもあの大変な当時諦めなかったからこそ、今の安定した生活があると思います。この畑を支えてくれた移民の先輩や家族、従業員にも心底から感謝しています」と笑顔を浮かべる。

　そんな山下さんに果樹栽培で一番うれしい時を聞くと、「手塩にかけて育てた果実が適正ないい値段で売れることが一番嬉しい。大事に育てた果実がいい値段で売れると、苦労の甲斐があると実感する。それだけの価値があるんだと果実も喜んでいる気もしますね」と柔らかい笑みを浮かべて語った。（つづく、淀貴彦記者）

大粒の種無しマスカット

収穫間際の葡萄

収穫した葡萄を選別指導

収穫した葡萄を選別する社員

柿を確認する山下さん

隣接する山下さんの柿畑

葡萄畑２

葡萄を摘む山下さ

葡萄を摘む山下さ

ん2

ん1

葡萄の出来を確認
する山下さん

《関連記事》

★２０２１年3月２６日《日系社会》聖南西果樹農家巡り（上）＝ピエダーデの西尾章子さん＝絶えることない研究心と情熱

★２０１０年１0月２３日《日系社会》我が移住人生意義あり＝山下治さん

★２０１９年9月７日《日系社会》在聖総領事館＝令和元年の外務大臣表彰伝達＝呉屋氏ら５氏が栄誉に浴す＝日下野さん「日本文化圏人育てる」